第３学年通信　第１２０号

YK Happy&Smile

建学の精神：敬天愛人

令和６年７月１８日発行

敬天愛人講座 実施

７/１７（水）、今年度初めての「敬天愛人講座」を実施しました。
入学以来通算７回目になります。

今回は「『敬天愛人』とは ～様々な解釈の在り方～」というテーマで話をしました。
「敬天愛人」の語は

- 儒教の「仁」（中国・清朝の時代にあった「典礼論争」の際の康熙帝の言葉「敬天愛人」）
- キリスト教の「愛」（『新約聖書』「マタイによる福音書」にみえる発想）
- 日本の伝統的価値観としての「誠」

等が複合したものとして考えることができることを学びました。

また、改めて、本学園の「敬天愛人」はあくまでも西郷南洲の言葉であり、そこから離れては「建学の精神」は成立しないということをふまえ、現学園長・長戸路政行先生の「自分に厳しく、人に優しく」という解釈を再確認しました。

「建学の精神」に対する理解は、私立学校の生徒にとって「スクール・アイデンティティ」に関わる大切なものです。今回は内容的にやや難しかったかとは思いますが、覚えておいて欲しいと願います。

西郷南洲顕彰会では、「敬天愛人」について次のような見解を持っている。

「求道者西郷南洲の『敬天愛人』は、儒教の仁、キリスト教の愛、仏教の慈悲、そして日本的な真心（誠）を統合した概念としてとらえるべきであろう。」
＊西郷南洲は当時の教養人として儒教に通じていたし、漢訳の聖書にも目を通していた可能性が高い。

「敬天愛人」という言葉そのものには多種多様な基盤から多種多様な解釈が成り立つ。

←本講座で用いたスライドより